

◆ 3つの記事に関して

「もう少し早く魅力を知れたら」という記事を読んで、秋田の魅力を様々な人に知ってもらいたいと強く思いました。何かの縁で秋田に住み、離れても交流が続くということは、秋田は本当に魅力のある県だと誇りに思います。「試行錯誤続く学生」という記事から、私も共感する部分がありました。不安や孤独が長い間続くのは精神的にきついと自分の大学生活を踏まえて思います。オンライン・オンデマンド授業でもメリットはあると思いますが、画面上からでない生で感じられる対面授業も重要だと痛感しました。「風車で観光客呼び込め」という記事では、新たな視点で分析する重要さを感じました。洋上風力発電は再生可能エネルギー発電であり、陸上風力発電よりも発電量が多くなるといった利点もあるため、それで観光振興につながれることが非常にいいと思います。

これらの資料を読み、自分の現在の大学生活を見直すきっかけとなった。国際教養大学の学生の事例を読み、コロナウイルスによる制限が緩和され私の通う大学でも対面授業が再開された今、自分が現在住んでいる岩手の魅力を知っているのか、知るための活動に取り組んでいるとはいえないと思った。地元の秋田のまだ見ぬ魅力を知るためにも自分が今住んでいる土地の魅力を知る必要があると思うので岩手の有名なさんさ踊りなどの伝統行事、豊かな自然に触れるきっかけをつくっていききたい。併せて、岩手が観光客を呼び込むためにどのような情報を発信し、どのようなおもしろい事業を行っているのか秋田県と比較して見ていきたい。

③の資料を読んで、まず私は、2023年度の秋田大学入学者の秋田県民の割合が低いと報道されていたことを思い出した。実際に入学し通い始めると確かに県外からの学生が多く、新しい発見も多かった。また、県外から来た友人も秋田県で暮らすようになって新しい発見があったと聞いた。竿燈まつりに行ったり、秋田の文化に触れたりすることで秋田県の実験を発見し、秋田県にいたることが楽しいと思ってもらえていることが非常にうれしく思う。次に、初の緊急事態宣言が出てからの約三年間は誰にとっても非常に大きな三年間であったのだということを実感した。自分たちの世代は高校三年間をコロナ禍とともに過ごしたため大きく取り上げられることが多いが、2020年度に入学した大学生の孤独についても取り上げられるべきではないかと考えた。